

教員氏名	茶谷 淳一	職位	教授
最終学歴	立命館大学大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得退学		
学位	経済学修士		
役職	学生部長	委員会	運営委員会 学生委員会 大学評価委員会 現教科ゼミ委員会
担当科目	<p>「国際経済入門」(英語コミュニケーション学科国際経済論)、「経済学」、</p> <p>「データサイエンス入門」、「国内研修」、</p> <p>「教養演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」</p> <p>「生活と経済」(桜花学園大学)</p>		
教科書・教材・教育 方法の実践例	<p>1. 教養演習Ⅱ・卒業研究</p> <p>学外諸団体(WAFCA、東海北陸車椅子バスケットボール連盟、名古屋市障害者スポーツセンターなど)の協力を得てゼミ活動を展開。社会の中での活動経験のなかでの「気づき」を大切にしながら主体的な学びを实践。また「泰阜ひとねる大学」構想の立ち上げに協力し環境省のモデル事業として取り上げられたほか、新聞各紙で紹介される。</p> <p>(なお、2021年度は学外での活動が不可能であったため、テーマをSDGsについて考えるとし、学内でできる活動を中心に学習をおこなった)。</p> <p>2. 国内研修</p> <p>「学外での活動を通じて幅広い人々とのコミュニケーションを通じて授業では得られない知見や経験を身につける。また学生自らが活動を企画・計画、研修先との交渉、実践することを通じて自主性と自信を身につけさせる」ことを目的として科目</p>		

	<p>の創設と運営に従事。この科目を通じて泰阜村役場、NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センターなどと学科との教育的連携が始まった。</p>
<p>教育研究業績</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 . 「デジタル人民元は基軸通貨・国際通貨となりうるか？」『名古屋短期大学研究紀要』第 59 号、2021 年 3 月 2 . 『人の国際移動と現代日本の法 人身取引・外国人労働と日本の入管法制』(共著)、2017 年 2 月 2 . 「現代の国際労働力移動を論じる視角について」『立命館経済学』、第 59 巻第 5 号、2011 年 1 月 10 日 3 . 「日本の対東アジア経済政策とサービス産業の海外進出」『立命館経済学』第 58 巻第 5・6 号、2010 年 3 月 10 日 4 . 『経済走勢分析 - 中国、日本与東盟連合』(共著)、2008 年 1 月 5 . 「雲南省の開発と国際化」『名古屋短期大学研究紀要』第 43 号、2005 年 3 月 31 日 6 . 『東アジア経済と日本』(共著)、2000 年 12 月 20 日
<p>所属学会</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 . 日本国際経済学会 2 . 経済理論学会 3 . 日本地域経済学会 4 . 経済史・政治経済学会